

OB通信

鳳 翩

復刊第7号

= 2010年12月 =

山口大学ワンダーフォーゲル部OB会

鳳翩会

目次

はじめに	1
本部・支部連絡先	2
2010年OB総会の報告	3
2009年OB会会計決算報告	4
監査報告書	5
2010年OB会会計中間報告	6
第1章 OB会員の皆様へ	
1 OB会費納入について	7
2 入会、脱会について	7
3 Y.U.W.V ホームページ	7
4 OB会ホームページ利用について	7
第2章 会員近況・活動報告	
1 2010年 OB総会(in 東京) 回想録(東京支部)	8
2 X?年後の山行(東京支部)	10
3 雪山ハイキングの巻(関西支部)	11
4 平成23年度「鳳翺会」総会の予告(山口支部)	12
5 卒部して28年目の近況報告(山口支部)	13
6 平成22年活動記録(九州支部)	14
第3章 現役活動報告	
1 執行部活動報告(本学)	15
2 執行部活動報告(工学部)	15
3 夏合宿結果報告 北アルプス後立山連峰白馬岳	16
4 アフター結果報告	17
5 八十キロ耐久徒歩	18
6 春合宿コース紹介	18
第4章 その他	
1 編集後記	19

はじめに

鳳翻会 会長 山本 充二

「歩かない日はさみしい 飲まない日はさみしい 作らない日はさみしい」…これは漂白の俳人 種田山頭火の句。彼は、名うてのワンダラーでもあったんですね。

「山から下りて家には7時、それからが一日のスタート」…これは鳳翻の暴走族と呼ばれる男女三人衆の言。彼らは、いずれも既に古希を超えているものの、毎日早朝登山し、すこぶる元気快活です。

人にはそれぞれ生活のリズムというものがありますが、日々の運動は、そのリズムを創り、支えるだけでなく、物事に前向きな気持ちにさせてくれます。

改めて我が身の奮起を期しつつ、迎える新年、OB会員諸氏の一層のご健勝とご活躍を祈念する次第です。

さて、2010年OB会総会・懇親会は、去る10月23日、東京都立川市の「ザ・クレストホテル立川」で開催され、全国から43名が集い、大いに旧交を温め交流を深めました。また、総会当日・翌日は、天気にも恵まれ高尾山や御岳への登山、ビール工場見学など、各自それぞれのコースを満喫しました。様々な準備やお世話に東京支部皆さんのチームワーク、結束力を改めて強く感じました。感謝とお礼を申し上げます。

このたびの総会で、2011年のOB会総会は、山口支部が引き受けとなりました。時期は、2011年11月5・6日、場所は秋吉台…草紅葉に浮かぶ石灰岩、陽光に揺らぐススキの穂、晩秋の秋吉台の風情を是非味わって頂きたいと思います。

また、この山口支部の引き受け時に、山口大学ワンダーフォーゲル部創部50周年記念行事を行うこととなりました。この50周年記念で何をするか、今後山口支部で実行委員会を立ち上げ検討し企画実施していくこととしています。ご意見やアイデアがありましたら、どうぞ早めにお寄せ下さい。

新年1月から、OB会の事務局長が交代します。

現 事務局長 清水彬行 (工・現4年) 君のこの1年間のご労苦に感謝します。

新 事務局長は 菊池武臣 (理・現3年) 君です。どうぞよろしくお願ひします。

== 本部・支部連絡先 ==

(本部)

OB会会長

山本 充二 (経・47卒)

OB会副会長

田村 伊正 (工・53卒)

OB会事務局長

菊池 武臣 (学生)

(東京支部)

支部長 城戸 賢嗣 (経・49卒)

事務局長 宮原 龍作 (経・50卒)

(関西支部)

支部長 池田 純(工・51卒)

(山口支部)

支部長 池富士 清(農・47卒)

(九州支部)

名誉支部長 永沼 嗣朗(経・39卒)

支部長 武富 敏夫(経・45卒)

事務局長 龍 純二 (文理・50卒)

2010 YUWV OB会 鳳副会 総会 次第

ザ・クレストホテル立川 [東京都]

2010.10.23 (土)

1 開会 (司会進行：宮原龍作)

1 会長挨拶

3 議長選任 (議長：城戸賢嗣)

4 議事

(1) 2009年事業報告及び2010年事業(中間)報告

(2) 2009年会計報告及び2010年会計(中間)報告

(3) 2009年会計監査報告

★ 以上別紙に基づき、田村副会長が説明し、承認された。

(4) 2011年総会開催地

★山口支部の引き受けが決定

2011年は10月に山口国体が開催されるため、11月5・6日に秋吉台での開催を予定。

(5) YUWV 創部50周年について

★山口支部の引き受け時に創部50周年記念を行うことに決定
記念行事のアイデアがあれば早く本部に寄せてもらいたい。

5 議長解任

6 閉会

- ・ 連絡事項 (懇親会、宿泊、翌日行事など)

第1章

OB 会員の皆様へ

1 OB 会費納入について

会費未納の場合は自然脱会となっております。会費のお支払いはお忘れなきようお願い申し上げます。
納入状況につきましては、2009年まで納入で、2010年が未納の方にのみ、今回振込みをお願いする紙を同封しております。お手数ですが、郵便振込みにて下記へ納入していただきますようお願い申し上げます。なお、2009年分のOB会費が未納の方は自然脱会となっております。

口座記号番号 01530-0-16050

加入者名 山口大学ワンダーフォーゲル部

個人会員年会費 2000円

夫婦会員年会費 3000円

会費納入は上記の倍数でお支払い下さいますようお願い申し上げます。

OB 会費の納入状況についてのお問い合わせは下記へお願いします。

OB 会事務局長

菊池 武臣

2 入会、脱会について

初めて入会される方、再度入会される方は会費振込を意思表示とさせて頂いておりますので、お手数ですが、前記の口座にお振込み頂きますようお願い申し上げます。会費未納の場合は、自然脱会となりますので、会費のお支払いはお忘れなきようお願い申し上げます。

3 Y.U.W.V ホームページ

山口大学ワンダーフォーゲル部のホームページをご紹介します。OB 通信(カラー版)も掲載しているので是非ご覧ください。

Y.U.W.V.ホームページ

<http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/tabidori/>

4 OB 会ホームページ利用について

OB 会のホームページの利用方法についてご不明な点は下記へお問い合わせください。

第2章

会員近況・活動報告

1 2010年 OB総会 (in 東京) 回想録

東京支部 S53卒 (工) 真島 俊和

OBの皆さん、いかがお過ごしでしょうか？

早いもので、OB総会 (in 東京) が終わり、早1ヵ月が過ぎようとしています。

吹く風も一段と冷たさを感じる今日この頃、あの高尾山や御岳も紅葉の時期を迎え、多くの登山者で賑わっています。

OB総会開催に当って、東京支部では、参加者の皆様に満足して頂けるよう、準備を重ねて参りましたが、当日は、何かといたらぬ点がある中、現役部員2名を含む総勢43名の皆さんに参加頂き、総会前後のエンジョイプランを含め大いに盛り上がった総会が開催出来たことを、東京支部の一員として感謝申し上げます。

思い起こせば、昨年12月12日(土)東京支部の忘年会の中で、次期総会に向けての話し合いが行われ、OB総会 (in 東京) の概要案が提示されました。城戸支部長から、OB諸氏の希望が多い、あの有名な高尾山を入れたい。また、近くに適当な宿泊施設が無いため、立川のホテルを利用する。さらに総会前後を有効に楽しんでもらえるよう、エンジョイプランを企画する・・・など。説明があり、満場一致で決議されました。

年が明けて4月16日(金)総会準備を具体的に進めるため、支部長・事務局を含む実行委員6名が集まり、総会の内容確認やエンジョイプランの企画と下見日程の担当割り振りなど打ち合わせを行いました。エンジョイプランの企画と下見山行やビール工場見学の日程は、支部の皆さんにも連絡され、それぞれ参加者が募られました。

5月23日(土)高尾山登山の下見山行に12名が参加。6月12日(土)ビール工場見学の下見に酒好き9名が参加。7月24日(土)御岳登山の下見山行に11名が参加。その後、メール等で連絡を取りながら、総会準備を進め、9月11日(土)支部会合を開き、総会・懇親会・エンジョイプランの詳細取りと役割分担を決め打ち合わせの後、総会の成功を願って皆で乾杯を行いました。

考えるに、下見の後は飲み会で盛り上がる総会準備の日々で有ったが、これもOB各位が健康な証拠と思ひ、常にプラス志向で臨む東京支部の皆さんである。

いよいよ、総会当日を向かえ、10月23日(土)の午後、エンジョイプランA(高尾山登山)には14名が参加。紅葉にはまだ早い、さわやかな天候にも恵まれ、ミシュラン観光地格付けで三ツ星の評価を受けた世界一登山者の多い山で有名な高尾山を堪能して頂いた。エンジョイプランB(ビール工場見学)には、10名が参加。サントリー武蔵野工場でのビールの生産工程を見学し最後に話題の「プレミアム モルツ」を試飲して、その味を堪能して頂いた。

いずれも、喉を乾かし、ビールの呼び水で、懇親会への下準備を完了させる。

総会・懇親会・宿泊は、JR立川駅近くの帝国ホテルグループの「ザ・クレストホテル立川」で行われた。まず、総会では、山本OB会長より、挨拶があり、OB会の現状と合わせて、現役WV部の現状にも触れられ、部員数の減少、特に工学部は、現在1名(4年生)となり、このままでは廃部の可能性も有る中、その1名が大学院へ進学の前定で、なんとかあと2年の延命状態とのことで大変さびしい思いを感じさせられた(現役、頑張れ!)。そして、議長選任の後、議事が粛々と進めら

れ、最後に、来年度（2011年）がYUWV創部50周年と成り、関連して次回のOB総会に関する議題が出された。創部50周年は、大きな節目の年であり、OBのみならず、現役WV部としても大いに係る事でも有るが、現役の現状を考えると、ここは、OB、現役が協力してOB総会の場を持って創部50周年の記念行事を行ってはどうか？ちょうど、次期OB総会幹事支部が山口支部となるので、来年のOB総会は、山口支部の主管で創部50周年の記念行事として、現役と協力したOB総会を開催する案が全員の賛成で採択された。早々に来年は、11月5・6日に秋吉台にて開催との提案が、山口支部より出され、了承される。

総会も無事終了し、いよいよ懇親会に突入、バイキングスタイルの円卓で卒年グループに分かれ、城戸支部長の挨拶をスタートに、皆さん、昔話や最近の山行など久しぶりの顔を確認しながら、大いに盛り上がり、各支部の近況報告や全員の自己紹介など行った。

一年振りに合わす顔、数年振りに合わす顔、お互い現役当時の若かりし顔を思い出しながら、楽しく、愉快に盛大な懇親会が続き、最後は、東京支部の上田さんの歌唱指導の下全員で大きな輪を作り、懐かしいワンゲル時代の歌を皆で肩を組み熱唱した。

大いに盛り上がった懇親会も終了し、まだ飲み足りない面々は、二次会の場所を求めて夜の立川の街へ足を向け、こじんまりとした居酒屋へ集結。テーブル毎に年代を超え、時間を忘れて話に、酒に、盛り上がった。

一夜明けて、総会・懇親会の翌日は、エンジョイプランC・Dの企画に時間的余裕のある方が挙って参加され、昨夜の飲み過ぎも無く？爽やかな顔で出発して行った。エンジョイプランC（高尾山登山）は、前日と同じコースで13名の参加者が、沢沿いの6号路を約90分、すっかりアルコールが抜けた頃、山頂に着き、20分程、自由行動の後、下山は1号路を観光気分で下って行った。それにしても、登山客（観光客）が多く、そこいらの街中を歩いているような気分で山頂から、ケーブル駅まで下り、その後は、ひたすら下りの舗装路を歩き、やや足が（膝が）痛くなってしまった。昼過ぎには無事下山し、早速、名物の蕎麦屋に駆け込み反省会で盛り上がった。

エンジョイプランD（御岳登山）には、10名が参加。JR御嶽駅から、バスとケーブルを乗り継ぎ、ケーブル御岳山駅から山頂までは、20～30分のコースで、途中、天然記念物の樹齢千年の神代ケヤキや紀元前90年、崇神天皇の時代に創建されたと伝えられる武蔵御岳神社があり、参道には今も30程の宿坊が立ち並ぶ、観光客や参拝客で一年中賑わう関東有数の霊場である。

日の出山へのピストンを含め、歴史を感じながら、楽しく半日を過ごした。

こうして、二日間のOB総会（in東京）も無事終了し、別れを惜しみながら、皆、帰路に着いた。

今回、OB総会（in東京）を開催するに当たり、現役部員、本部役員・事務局、並びに多くの関係OB諸氏の御協力を頂き、無事に盛大なOB総会が開催出来ました事を東京支部の一員として、厚く御礼申し上げます。

大学を卒業し、WVを卒部し、年に一度のOB総会を楽しみにしているOBの皆さん、こうした繋がり
の輪がもっと広がり発展することを切に願う次第です。

来年の次期OB総会は、山口支部主管で創部50周年記念行事として秋吉台の地で開催が決定
しています。一人でも多くのOB諸氏の参加を願い、50周年に相応しいOB総会を皆の協力の基
開催出来る事を期待しております。また、現役WV部が今後とも多くの部員を獲得し、その伝統を
絶やす事無く発展することをOBの一人として願っております。

2 X?年後の山行

東京支部 木村 優子

又 今年もアルプスを望む事が出来たな！！ そうです、私達“自称リタイア組”OBは毎年夏に、仕事の現役組が満員電車で揺られて痛勤し、夜遅くまであくせく働いている時に、3,000m 前後一ちょっとサバを読みすぎかな一の山に登っています。初回の西穂独標に続き、今年は蓼科山に行ってきました。総勢九名 カップルは二組でした。もちろんその内の一組は私達夫婦です。もう一組の奥様はこれまで高い山には縁の無い方でしたが、豈（あに）図らんや、あれあれと言っているうちに、彼女はスイスイと先頭グループで先に登り、下りもさっさと下りて行ってしまいました。私と言えば・・・

そうそう、思えばワンゲルとの最初の出会いか、「よし今度山を下りたら“退部届け”を出そう」の繰り返しの連続でした。それが何の因果か同じ釜の飯を食ったワンダラーと人生のパートナーを組みました。山でこれまで見ていた印象と違って実生活でのパートナーとの“日常生活”は、山あり谷ありだな～と遅まきながら実感し始めた頃、家族の同行者が増え山の仲間は三人。三人目のワンダラーは、もちろん背負子頼りのスタートでしたが、順調な滑り出しとは裏腹におだてやほめ言葉では山行きに釣られなくなった頃、ブータレ言葉が木々の小鳥たちのさえずりと一緒に聞こえ始めました。そうこうするうちに山の仲間は4人になりました。

増えたのは人数だけでなく年齢も加算されていたのです。案の定、だんだん“お山”が低くなり、いつの間にか高々700m の山に登って「ああ、今日はきつかったけれど楽しかったね」年嵩の上二人がそんな山行きに満足していると、家族での山仲間は一人減り二人減り気付くと元通りの二人の山行きになっていました。年に1~2回の東京支部での山行行事に参加しても、フーフーハーハーでしんがりをいつもつとめる有様。

この最近では、伴侶は今までの“ロス”分を取り戻さんとばかり月に1,2度山に登っています。この夏も三度目の正直とばかりに息子をパートナーとして日帰りでの富士山登山を果たしました。私も伴侶の勢いに引っ張られるように、ちょっと高めの山に登ることを楽しみにしている今日この頃です。

還暦を過ぎてもこのような山行きが出来るとは夢にも思っていなかったもので、山の仲間の皆様に感謝の気持ちで一杯です。人生八十年以上が当たり前になりつつある昨今、還暦に赤いちゃんちゃんこよりも、格好良い山シャツを着るのもいかががでしょうか！

追； 時間の取れる方“リタイア組”登山にぜひご参加を・・・

3 雪山ハイキングの巻

関西地区鳳翔会

池田 純



登山道よりスキー場を望む

去年の冬近場で山の好きな義理の兄に雪山ハイキングに連れて行ってもらいました。行先は滋賀比良山系のマキノ高原です。ここ滋賀の地は琵琶湖のおかげで、日本海側の気候が南のほうまで来るのでちょっと足を延ばすと手頃な里山の雪遊びが楽しめます。マキノ高原は古くから開設されたスキー場で昭和の初め鉄道が敷かれる前、船便を利用し京阪神から大勢の人が滑りに来たとあります。また温泉もよく個人的には琵琶湖沿岸数あれど、もっともいい温泉と思ってます。

さて山行の予定はスキー場から赤坂山(824m)までピストン温泉につかってゆっくり帰るというものです。スキー場の駐車場に車を置きスキー客の邪魔にならないようスキー場の端っこを歩き登山道に向かいます。休日にも関わらず家族のスキー客はまばらで最近はこのような近場のスキー場のお客は減少傾向だとのこと。ただ町から近いので地元の小学校から団体授業でよく利用するようでゼッケンをつけた団体さんがきました。

スキー場を抜けるとさすがに壺足ではどうしようもなく持参したかんじきをはきました。このかんじき学生の時木製のものが部の装備品としてありましたがさすがに現在は軽合金製で、バンドで止めるようにできてます。昨夜積もったばかりの雪は柔らかくかんじきをはいてもぐっと足は沈みます。2hほどで休憩場に着くが出発したスキー場がすぐそばに見えいくらかも歩いていないことがよくわかります。この休憩所で昼食、昼食はちょっと凝って湯豆腐です。幸い風もなく思いのほか暖かでしたし幸福な気分を味わう。

休憩している間に熟年夫婦がやってきて一言二言言葉を交わす。この方たちを含め大勢の方と追い越されたりすれ違ったりしましたが我々のようにかんじきの人はおらずもっぱらスノーシュー（西洋かんじき）をはいてる人ばかりでした。こちらのほうが歩くのが楽そうで次回は試してみようかなどと思ひ

ました。

思ったより雪が深く体力もないので予定していた赤坂山まで行くのはあきらめて途中の展望台で引き返し元のスキー場に戻りました。夏であれば2hもかからないコースを一日歩いたことになります。夜はお約束の温泉で小学校を改造した民宿で一泊しました。ここの民宿はちょっと変わっており酒類の持ち込みは自由で学生が何かのイベントをやるには持ってこいの場所と思います。

翌日は温泉三昧で、温泉の梯子をして帰路に着きました。

4 平成23年度「鳳翔会」総会の予告

平成22年12月

「鳳翔会」山口支部長 池富士 清

師走の候、会員の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

先般開催された22年度「鳳翔会」総会の折に、山口支部として、次年度総会と創部50周年記念行事の同時開催の引き受けをお約束したところです。

本部役員、支部幹事の皆さんと相談した結果、一面のススキに覆われた秋吉台を会場に、下記の概要で開催してはと考えております。

広大な草原でのワンデリング、合ワンなど、会員の皆さんには大変思い出深い場所ではないかと思えますので、多くの参加をお待ちしております。

また、創部50周年記念行事は、会員の皆様のご支援がないと成り立ちませんので、今後の取り組みに対しましてご協力をお願いいたします。

記

- 1 開催期日：平成23年11月5～6日（土、日）
- 2 開催場所：秋芳ロイヤルホテル「秋芳館」
- 3 行事内容：総会、50周年記念行事、懇親会、トレッキング
- 4 会場へのアクセス
ホテルの送迎バスを活用した、新山口駅等への送迎プランを設定予定

一面ススキの秋吉台が待っています



4 卒部して28年目の近況報告

山口支部 S57年卒 坂田信一

ワングルを卒部して28年が経ちました。今、山口大学のワンダーフォーゲル部に所属していたことを幸運であったと思っています。なぜって、今でも、ワングルの仲間との付き合いが絶えていないし、OB 会に行けば、大学時代にあっていない人も含めて、ワングルの輪が拡大していくからです。この時代において、結構まれなことではないかと思っています。

我々の時代は、ワングル部の最盛期で、同期だけで本学、工学、医学合わせて30人もいます。みんなでトレーニングをして、合宿して、コンパをして、楽しい記憶がいっぱいです。僕は足が速かったので、ワングル部の学長杯での活躍に貢献したことも、嬉しい記憶です。この話で、今でも盛り上がりません。

記憶に残っている合宿のシーンは、1年の夏合宿、北海道のオプタテシケ山からトムラウシ山の間の日場付近で見た景色。天場をはなれてひとりで歩いていたら（なんで歩いていたかは聞かないで）、自分はすごく高い場所にいるにもかかわらず、なだらかな山の斜面に這い松が広がっている。誰一人いない。風の音だけ。目の前に広がる雄大な自然と小さな自分の存在。そのときに感じた感覚は、言葉にはなりにくいのですが忘れられません。

大学卒業後は装備をそろえて、子供と妻を連れてキャンプに行っていましたが、子供の成長とともに、疎遠になってしまいました。しかし、今でも、気持ちのいい季節には、小さなバーベキューセットを持って景色のいい場所に行って、スーパーの総菜コーナーで買ったコロッケやカキフライやらを焼いて、「外で食べるのは最高！」と思いながらやっています。妻は恥ずかしそうでもあるのですが、それはあんまり気にかけないで、やっております。それと、最近のワングル的活動として、サイクリングがあります。現在、三国さん（S55 卒）、八谷さん（S54 卒）と一緒に春と秋に数回ずつサイクリングに行っています。2000 年ごろに運動不足解消を目指して、山口県の山道を走り始めました。結構山の奥まで道が続く限り走っていたのですが、これは今から思えば「調査ワン」をしているようなものでした。三国さんが加わり、八谷さんも加わり、「調査ワン」を踏まえて、山口の素晴らしい「舗装された林道」を走っています。ほとんど人は通らないのに舗装道路は続く、「ぼくらのサイクリングのために作ってくれたの、ありがとう！」と思いながら悦に至っています。

2003 年ごろワングル OB 会が大々的に復活したことは知っていたのですが、全然知らない大先輩と話できるの？と思い参加するのをためらっておりました。でも、最近、OB 会に関係し始めて、そんな思いは不要であったと思いました。「ワングル」という共通語さえあれば、知らない人でもやっぱり山口大学ワングル部の先輩と後輩、すぐに話はできるようになるし、すこぶる楽しくなってしまいます。まだ、参加していない人はぜひ参加してみてください。

仕事は山ほどあるし、サイクリングもしないといけないし、ワングル OB 会の活動もあるし、50歳を過ぎて持物を整理する作業にも取り組んでいるし、時間不足となっているこのごろです。

5 平成22年活動記録

福岡支部 昭和51年卒部 岩本信弥

3月21日 第15回筑後川くるめ菜の花マラソン大会
ハーフマラソン完走 タイム2時間16分2秒

5月2日 久住 牧ノ戸～扇が鼻往復
同行者 老妻・老犬（シェルティ牝11才）
老犬が最後の最後疲労に歩行拒否のため5分程犬を抱いて下る

6月12～13日 木曾御岳（3060メートル） 田の原駐車場よりピストン 単独行
1日目 博多を8時の新幹線で出発し名古屋で中央線に乗換、木曾福島13時30分着。
レンタカーで田の原駐車場15時30分着。車中泊。
2日目 田の原駐車場4時20分発、頂上着6時40分途中雪渓が続き簡易アイゼン装着。
頂上7時発、田の原駐車場着9時、博多着18時。
頂上からの眺望はすばらしかった。

8月7日～9日 北ア裏銀座縦走 同行者2名宮城県在住56才、兵庫県在住50才
1日目 5時30分信濃大町集合～高瀬ダム～烏帽子小屋～烏帽子岳～烏帽子小屋～野口
五郎小屋 行動時間 8時間20分。野口五郎小屋のみぼらしさにノスタルジアの趣有り。
2日目 野口五郎小屋～水晶岳～鷲羽岳～三俣蓮華～双六小屋 行動時間 9時間
眺望よく雲の平方面へ足をのばしたくなる。
3日目 双六小屋～西鎌尾根～槍ヶ岳～槍沢～横尾山荘 行動時間 9時間30分
槍沢はここ数年に比して、雪渓が多いとのこと。

10月10日 第7回筑後川マラソン
フルマラソン完走 タイム6時間23分42秒
順位 1048位／1430人

このような活動がいつまでできるかわかりませんが、体が続く限り頑張りたいと思います。

第3章

現役活動報告

1 執行部近況報告

本部 第50期主将 菊池武臣

こんにちは、主将の菊池武臣です。先日調査ワンデリングとして大山に行つてまいりました。自分の予定の関係上で少し遅めの11月末になってしまいました。楽しみにしていた紅葉も見られずじまいで、雪がうっすら積もっている状態でした。先日には山口でも雪が降り、本格的な冬の訪れを感じました。

まず残念なお知らせとして夏合宿後に2人の1年生が退部してしまいました。理由として、一人は普段から少しついて行くのがつらく、夏合宿でそれが限界に達してしまつた。もう一人は部員同士の摩擦からによるものでした。前者は自分が主将としてもっと個人の力量を見て無理をさせないようにしなくてはならなかつた、後者は部員同士の間に立って解消してやらねばならなかつたと、感じており、主将としての力量不足を痛感いたしました。その反対にいいこともありました。何とここに来て1年生一人の入部が決定いたしました。この時期なので大きな登山計画はなく残念がついていますが、やる気はとてもあり、次の春合宿がとてもしみじみ今日この頃です。

最近の活動として、今年は部員(オッチェン)の人数不足によって学長杯駅伝大会に参加することができなかつたので、普段のトレーニングも変わらずに基礎体力を作ることを目的としたものを週3回行っています。また、時期執行部への引き継ぎも順調に進んでおり、後輩の成長というものは嬉しい反面、自分の元から離れて行つてしまつているようで少しさみしい部分もあります。しかし、それでも現在2年生が馬屋原一人ということもあり、まだまだサポートが必要な状況です。そのため、現時点としては、来季の執行部も1年生にも協力して役職に就いてもらうという方向性で引き継ぎを行つております。

今後の活動としては2月に雪上訓練、3月には春季合宿を予定しています。仲間意識を強く持つて協力することを忘れずに活動していこうと思います。

2 執行部近況報告

工学部 第48期主将 清水彬行

前年度に引き続き、第48期の主将を務めさせていただいております、工学部循環環境工学科4年の清水彬行です。

工学部は現在、4年1名で活動しています。研究があるため、トレーニング(ランニング、筋トレ)は週1回行つており、暇があれば土日は近くの山に登っています。ロッククライミングもたまにやっています。

私は山口大学大学院に進学することが決まっているため、なんとか部室は確保できている状況です。

今年は11月~12月にかけて本学でピラ配りや茶話会をして工学部部員獲得のために努力をしましたが、獲得することはできませんでした。工学部教員(ワンゲル OB)に協力を求めて1、2年生を勧誘したいと思います。来年こそは工学部部員を獲得するために努力していきます。

3 夏合宿結果報告 北アルプス後立山連峰白馬岳

責任者 菊池武臣

このたび、夏合宿の PL を務めさせていただきました、理学部生物・化学科 3 年の菊池武臣です。今年の夏合宿は 8 月 25 日から 30 日にかけて北アルプスの白馬岳にて行いました。

AP(8月25・26日)

先輩方や山口県立大学の差し入れに来てくださった方々の見送りの中はるか遠くの長野県に向かって出発しました。AP 1 日目では中津川駅に 20:30 頃に到着し駅で一夜を明かしました。途中警察に職質されるなどびっくりすることもありましたが、特に困ったことはありませんでした。翌日には 6:48 の電車で松本、さらにそこから白馬へと向かい白馬からはバスで猿蔵の登山口まで向かいました。

1 日目

村営猿蔵壮 → 白馬尻小屋

計 1 本 1 時間 10 分

登山口につき昼食をとりました。天気は曇りで、雨が降らなければいいね。などと話していましたが、昼食の途中で降り出してしまいました。あわてて屋根の下に避難をし、小ぶりになった時を見計らって一気に少し急ぎ足で白馬尻小屋まで登りきりました。白馬尻小屋は大雪溪のすぐ下ということもあり夏だというのにびっくりするくらい涼しかったです。

2 日目

白馬尻小屋 → 村営猿蔵壮 → 小日向のコル → 白馬鑓温泉小屋

計 6 本 4 時間 30 分

前日の始まりが雨で天気もそれほど良くなかったですが、山行中は雨に降られることなく順調に進むことができました。それでも前日の雨の影響で地面がぬかるんでいるところも多かったので気をつけて進んで行きました。途中雪溪が 2 か所あり誰もが初めてだったのでここは本当に慎重に進みました。他にもがれ場などもありましたが、白馬槍温泉小屋の手前になると花が咲いていてとてもきれいでみな心がなごみ最後のひと頑張りにつながったと思います。小屋には今回の夏合宿の目玉でもある温泉があったので皆で入り少しばかりの落ち着いた時間に浸ることができました。

3 日目

白馬槍温泉小屋 → 分岐 → 鑓ガ岳 → 杓子岳 → 村営頂上宿舎

計 6 本 5 時間

夜に雨が降っていたのでどうかと思っていましたが、朝にはやんでいて前日と同じように夜明け前に小屋を後にしました。西に向かって進んでいたのも山の中腹からのきれいな夜明けを拝むことができました。途中には鎖場があり慣れない 1 年生は怖がっていましたが自分としてはアスレチックのようでとても楽しかったです。鎖場を過ぎてしばらく行くとお花畑に出ました。お花畑とその後ろに見える山の連なりはびっくりするくらいきれいでした。ですが、虫もすごかったです。この辺りから 1 年生に疲労が見えだしたので、荷物を分け合って軽くして進むようになりました。尾根に出て鑓、杓子と通って村

営頂上宿舎へと着きました。ここは大雪溪から登ってきた人がたくさんいました。
白馬の鑓、杓子は石ばかりであり面白くなかったです。

4日目

村営頂上宿舎 → 白馬岳 → 三国境 → 小蓮華山 → 白馬大池山荘
計4本 2時間35分

本来の予定ではご来光を見る予定ではなかったのですがせっかくなんだし見ていこうということで少し早起きして白馬の頂上からご来光を見ることにしました。とても寒かったので皆で体を寄せ合って温まりながら朝日を待ちました。日が徐々に登ってきて空が白んでいく様子、そして太陽がでてきた瞬間はまさに圧巻でした。ご来光を見たのち大池山荘目指して下り始めました。下りはやはり楽でした。大池山荘は名前の通り池がありすごいきれいでした。

5日目

白馬大池山荘 → 乗鞍岳 → 天狗原 → 榎池自然園
計2本 2時間

乗鞍岳は下りの途中なので当然ですが、今までの山と比べてすごく低く感じました。丘かと思いました。そこからさらに下って行ったのですが、かなり早い段階から天狗原は見えていました。しかし、実際には結構歩かなければ到着しなかったのもそれまでの疲労も伴って皆つらそうでした。天狗原からは木道で疲労がなければかなり気楽に散歩ができたのではないかと思います。そのあとはまた登山道になったのですが前日の夜にだいぶ雨が降ったらしく道はぐちょぐちょでかなり歩きにくく足を滑らせることも多かったです。しばらく進むとロープウェイ乗り場に到着し、合宿は終わりました。

総コースタイム 4泊5日 15時間15分 合計19本

今回の夏合宿は全体的に運が良かったと思います。特に天候がよく味方してくれたと思います。きれいに晴れることはなく雨も降ったのですが、雨が降ったのはテン場に到着してからや、山行をしていない時ばかりで山行には一切影響がありませんでした。しかし、今回の夏合宿は自分の甘さのせいではあるのですが、全体的に準備不足だったと思います。一番いけなかったのは、基礎体力などは普段のトレーニングによって培われてはいたのですが、登山経験が明らかに少なかったために山での行動、独特の疲労には対処しきれませんでした。それでも今回の合宿を成功させることができたのは全員が協力し合うことができたからだだと思います。つらそうな人の荷物を自分の荷物が重くなるにもかかわらず自分だって辛いはずなのに1年生も一緒になって分担してくれました。本当に感謝です。そういった点もあり、とても楽しい北アルプスでの山行でした。

4 アフター結果報告

責任者 馬屋原範聡

今年のアフターの計画を立てさせていただきました農学部生物機能科学科2回生の馬屋原範聡と申します。今年のアフターは剣岳を登頂する計画でしたが、P-menが2人であったことや、両者とも登山経験があまりないという理由で今年は断念しました。来年は報告できますよう精進していきます。

5 八十キロ耐久徒歩

責任者 清水彬行

工学部、宇部高専の部員不足のために去年と同様に今年も中止にしました。来年はOBの方々の声もあり、八十キロ耐久徒歩をできたらいいなと思います。

6 春合宿コース紹介

責任者 馬屋原範聡

こんにちは、今年の春合宿のPLを務めさせていただきます農学部、生物機能科学科、2回生の馬屋原範聡と申します。今年の春合宿では屋久島へ行ってきました。世界遺産である屋久島は島固有のヤクシカやヤクザルといった動物や植物、さらにそれらを支える気候をもちます。そこで、それら今までに体験したことのない環境を実際に肌で感じたいと思います。また、ワンゲルとしては当然のことではありますが自然保護の意識を高める良い機会にもなると考えています。

■1日目 屋久島の安房へ上陸後、バスで紀元杉へ向かいます。頂部が枯れてもなお、下部の葉をおい茂らせる紀元杉を出発し、全体に葉を蓄えた若々しい川上杉を過ぎて淀川登山口に到着します。始めてみる自然を堪能しながら、標高差のあまりない淀川小屋でテント泊を行います。

■2日目 この日は山がメインとなります。翡翠色の美しい淀川を見下ろしながら歩道橋を渡ると、視界が開け徐々に高盤岳の姿を表します。さらに進むと苔スマレや、ヤクシマコオトギリなどが自生する湿原である花之江河に到着します。ここからは、山々に岩肌が露出し、笹原の分布が増え始めます。山々を通り過ぎ、巨大な花崗岩のある栗生岳を過ぎると日本百名山、百番目の山にして九州で最も高い宮之浦岳山頂へ到着です。下山を始め平石や坊主岩といった巨大な花崗岩をあとに進んでいきます。すると、第二展望台から登った山を一望することができ、改めて達成感に浸ります。さらに下りヤクシカのよく出没する新高塚小屋でテント泊を行います。

■3日目 この日は杉を見ることがメインとなります。下山を始め30分ほどで樹齢7200年ともいわれる縄文杉に到着します。ここから大王杉、ウィルソン株などの長い時間をかけて自然の作りだした巨木をいくつも目にしながら、次第にくだりが緩やかになっていきます。そして、荒川登山口に到着します。

山行自体は3日と短いですが、屋久島は「週に8日は雨の日」ともいわれるほどに雨天の日が多く、パーティーに1年生が多いため余裕をもった山行にしていくとともに、思い出に残る春合宿にしていきたいと思います。

第4章

その他

1 編集後記

編集 清水彬行

今年、OB 通信を編集してきて OB の方々がいろんな山に登られたり、旅行に行っていることがわかりました。僕も将来、山に登ったり、どこか旅行に行きたいと思いました。また、僕は OB 総会を 3 回参加させてもらいました。その中で昔のワングルのことや伝統などを聞き、とてもいい経験になりました。

現在部員数も少なく、部活動も以前よりは少なくなった気がしますが、山口県内とのワングルとの交流も増えてきたので今まで以上にワングルを盛り上げて欲しいと思います。

1 年間 OB 事務局を務めてきて、様々なことを知り、学ぶことができたと思います。はじめは仕事に慣れていなくてわからないことも多く、OB の方々に迷惑をお掛けしてしまいましたが、今思えばやってよかったと感じました。1 年間ありがとうございました。